

# 生成AI・地政学で変わる半導体

東洋経済新報社報道部記者  
石坂友貴



- \* エヌビディアが世界の注目
- \*ゲーミングから生まれGPUに特化
- \* GPUが生成AI開発に適していた
- \* 使いやすいエヌビディアのGPU
- \* 開発環境が顧客の魅力
- \* ライバルはどこに現れるか
- \* 日本は40ナノから以降が空白
- \* 半導体を作れない日本の自動車業界
- \* 危ういラピダスの挑戦
- \* 難しい量産と顧客探し

山縣 3月8日の講演会を開催したいと思います。よろしくお願ひします。（拍手）

さて、本日は半導体のお話ですけれども、皆さんからも半導体の最先端の動きを知りたいと、そういう講演会はできないのかというお声を前からいただいております。東洋経済の報道部におります石坂友貴記者を今日はお招きして、彼に半導体の最前線はどう動いているのか話をしてもらいたいと思います。

東洋経済は、記者がほぼ90名おりますが、おそらく90名の経済記者を育てている出版社はありませんし、大きな新聞社の経済部よりも大きな所帯であらゆる産業をウオッチしております。その90人の記者の中で、おそらく彼が今いちばん忙しい。石坂記者は、たとえば熊本でTS

MCの新しい工場の開所式がありますと熊本へ行き、NVIDIA（エヌビディア）の株が急騰すると——今日も上がっているようですけれども、その分析を書きということで、編集部からどんどん注文が来ますので、たぶん毎日、毎日書き続けて、書いては取材、取材しては書くというようなことをしていると思います。

その中で、今日は、彼が見聞し分析した最も旬な半導体のテーマの大事なところを皆さんにお話しして、またご質問も受けたと思います。それでは、石坂さん、よろしくお願ひします。石坂 皆さんこんにちは。（拍手）よろしくお願ひします。

今回は「生成AI・地政学で変わる半導体」というところでお話ししていきたいと思ひます。